



特集

観光情報学

編集にあたって

松原 仁¹ 中島 秀之¹ 鈴木 恵二²

¹ 公立はこだて未来大学 ² 北海道大学

本誌の多くの読者にとって、旅行に出かけることは、それが出張であれ、旅そのものが目的となっている場合であれ、割と頻繁にあることと思われる。出張であるならば、目的地も、ある程度のスケジュールも決まっているので、それに合わせて飛行機や鉄道のスケジュールを確認し、ホテルとともに予約していることであろう。そして業務や移動の合間に、その土地ならではの、おもむきや楽しみをつかの間であれ見つけ出しておられることと察する。また、旅そのものが目的であれば、そもそもどこに行くかと色々と調べ、楽しく思案するときから旅が始ま

っているであろう。いずれにせよ、旅の始まりから終わりまで、さらには帰ってきてから、旅の経験を仲間とシェアするまで、ことごとく情報システムの支援、恩恵にあずかっている今日ではなからうか。そして旅を楽しむ行為、すなわち観光をより充実したものにしようと望むほど、先端的な情報環境の充実を所望しておられることであろう。

こうした個人的経験に基づいて、観光と情報の結びつきを感じるのみならず、本会の全国大会等において観光と結びついた研究発表が継続的に見受けられていることに、お気づきの方もおられると思う。

しかし、情報処理と観光の結びつきを題材とした諸研究が観光情報学という学問分野を形成し、国際的にも展開されていることをご存知の方は、残念ながらそう多くはない。

本特集は、近年形成されてきた多様な観光情報学にかかわる研究の取り組みを理解していただくとともに、将来、多くの読者がこの分野にかかわる研究の取り組みを開始していただくことを願って企画したものである。

まず「1. 観光情報学(松原)」において、この学問領域の目的、発展経過について示すとともに、今後の展望を解説する。続いて観光振興に欠かせない行政の立場から、「2. 観光政策における ICT の活用について(藤田)」と題して、観光政策として推進してきた ICT 活用についての具体的事例について解説する。

観光情報学における研究の多様性を示すものとして、「3. 観光情報学におけるアクションリサーチ—北大グルメエキスポの開催を通して—(川村, 鈴木)」では、近年注目されつつあるアクションリサーチの観点を取り入れた研究事例を紹介する。さらに、情報技術によって観光の動機そのものを演出する一例として、「4. ジオキャッシング：現実世界に埋め込まれたゲームとその観光的要素(倉田)」を解説する。

観光情報学は観光者を対象とするばかりではなく、観光を提供するサービス業にも着目する。観光サービス業にとって、サービス改革とそれを実行していく人材の育成は重要事項である。このテーマにかかわる話題として、「5. 観光マーケティング論—サービス・イノベーションの創出に向けて—(内田)」を示す。

近年、国内観光にとって大きな衝撃となったのはもちろん東日本大震災である。観光を対象とするうえで、天災などによるリスク発生への対応は無視できないテーマである。そこで、「6. 震災後の観光復興—東アジア消費者の変化と消費者マーケティング

—(伊藤)」を紹介する。

地域と観光の結びつきに関するものとして、「7. 遍(あまね)プロジェクト：歴史観光情報コンテンツの生成・配信—歴史資料の先端的活用を目指して—(堀井, 沢田, 林)」では、地域の資産である歴史資料をコンテンツ化し、配信した研究事例について解説を行う。加えて、世界遺産登録を観光振興に向けて、いかに利活用していくかをテーマとした、「8. 平泉観光の新たな価値創造と情報の利活用—大学地域連携の視点から—(阿部)」についても紹介する。

近年、観光者にとって重要な情報源となっているのが SNS である。その有用性は、平常時はもちろんのこと、東日本大震災の発生時に見られたように、非常時においてはさらに重要性が増す。観光者は見知らぬ土地で非常事態に遭遇することになるゆえ、迅速で分かりやすく正確な情報伝達を求めることとなる。そのような情報源の1つとして期待されているのが Twitter であるが、大震災後の情報伝播の実情を解明することにより、災害時の観光者サポートに関する知見が得られると期待される。このような観点から「9. 東日本大震災時の Twitter における情報伝播ネットワーク(山本, 小笠原, 鈴木, 古川)」を示す。

さまざまな先端情報処理技術の応用を通して、観光をより豊かなものとし、さらに地域振興、観光産業の成長へと波及させていくことが望まれている。ここでは、デジタルアーカイブ、AR 技術、音声技術の観光への応用事例として、「10. デジタルアーカイブスを活用した観光コンテンツ(川嶋)」, 「11. AR による小樽観光ガイド(深田, 中江)」, 「12. 音声観光ガイド技術(川本)」について解説する。

本特集を通じて、読者が観光情報学への理解を深めるきっかけとなることを望むとともに、情報処理およびサービス工学の観点からみれば、まだまだ未開拓領域が多数残されているこの研究分野へ、多くの方に加わっていただきたいと願うものである。

(2012年9月21日)